

社会科



子どもが「学びをつなぐ」社会科学学習

神田 佳奈 上園 真輝

昨年度までの研究の概要

社会科研究部では、社会科における「学びをつなぐ」姿を以下のように捉え、研究を進めてきた。

- これまでの学習や自分の経験等を基に、学習問題に対して自分の考えをもったり、まとめたりする姿
【これまでの学びを生かす】
- 資料から読み取った事実を根拠に、自分の考えを仲間に伝えたり、仲間と自分の考えを比べたりしながら、学習問題に対する答えを追究していく姿
【仲間の考えを生かす】
- これからの社会について、自分たちの課題を見だし、解決方法や生き方等よりよい考えをもつ姿
【日常生活とつなぐ】

1年次は、「子どもが社会的な見方・考え方を働かせることができる資料提示の在り方」と「自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができる学習指導の在り方」について研究した。資料提示の仕方を工夫したり予想を立てる時間を確保したりすることで、子どもは多面的・多角的に社会的事象を捉え、根拠を明確にした自分の考えをもつことができた。そのなかで、仲間との協働的な学びが、自分の考えの深まりにつながるということが分かった。

2年次は、子どもが自分の考えを見つめ直し、よりよい社会の在り方を考えることができるようにするために、「協働的な学びを実現する教師の働きかけ」と「自分と社会とのかかわりを見いだすまとめの在り方」について研究した。1単位時間のなかで協働的に学ぶ場面を意図的に設定することで、子どもは自分の考えを見つめ直し、深めることができた。しかし、子どもが自分と社会とのかかわりを自分の経験等と関連付けて考えることについては、課題が残った。

そこで、本年度は、子どもが自分と社会とのかかわりを自覚し、これからの社会について主体的に考えることができるようにするための手立てを追究する。そのために、「子どもに問いをもたせるための手立て」と「子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方」の2つの柱で研究を進めていく。

研究内容

- 1 子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
 - (1) 子どもに問いをもたせるための手立て
 - (2) 子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方

研究内容の基本的な考え方

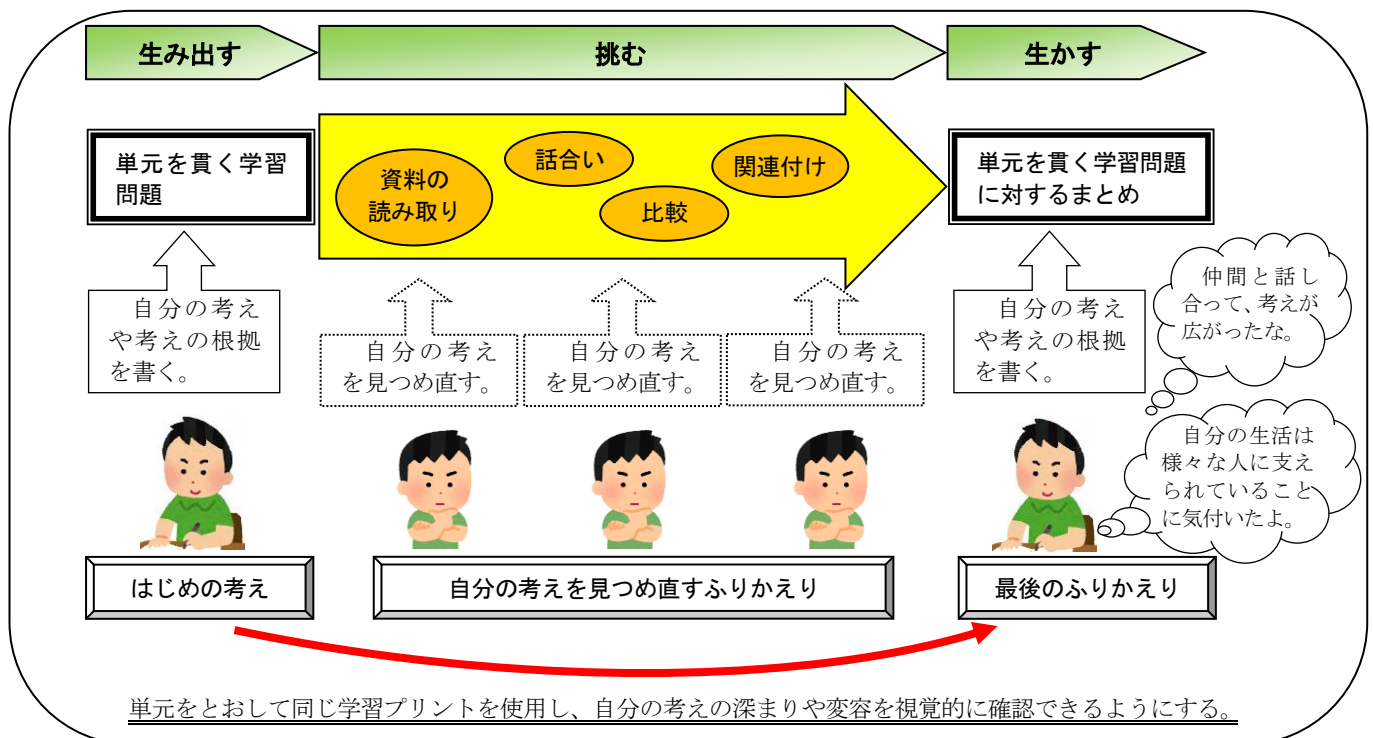
1 子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

(1) 子どもに問いをもたせるための手立て

子どもが自分と社会とのかかわりを自覚し、これからの社会について主体的に考えることができるようにするためには、まず社会的事象に対して問いをもたせる必要がある。なぜなら、その問いが仲間との話し合いによって問題意識へと高まり、解決したい学習問題を生み出し、子どもが「考えたい」、「調べたい」という思いをもって、自ら学習に取り組むことにつながると考えるからである。そこで、本年度は、子どもに問いをもたせるための手立てを追究していく。具体的には、子どもの認識のずれを生じさせたり、子どもがこれまでの学習や自分の経験等を基に考えたりすることができる資料の在り方や、それらの資料の提示の仕方について追究していく。

(2) 子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方

子どもが、社会的な見方・考え方を働かせて、学習問題を追究するためには、自分がこれまでにどのような社会的な見方・考え方を獲得してきたかを自覚し、それを生かそうとすることが大切である。子どもは、様々な資料から情報を得ることや、仲間と話し合うこと、複数の資料を比較したり関連付けて考えたりすることで、自分の考えを見つめ直すことができる。そこで、本年度は、子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方を追究していく。具体的には、単元を貫く学習問題の設定時に、自分の考えやその考えの根拠を記述させ、単元のなかで単元を貫く学習問題に対する考えを見つめ直す時間を適宜設定する。単元の終末に、再度、単元を貫く学習問題に対する自分の考えを記述させることで、自分の考えの深まりや変容、「何を学んだか」等を自覚させたい。



【自分の学びを自覚させるためのふりかえりのイメージ図】

研究の実際

1 子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

(1) 子どもに問いをもたせるための手立て

子どもに問いをもたせるためには、子どもの認識のずれを生じさせる資料や、子どもがこれまでの学習や自分の経験等を基に考えることができる資料を選定したり、提示の仕方を工夫したりすることが重要であると考えた。

① 見学に向けての問いをもたせるための手立て

本単元「店ではたらく人」では、実際に近隣のスーパーマーケットに見学に行くことを計画した。子どもが問題意識をもって見学に臨むことができるよう、資料の提示やその後の展開を工夫した。

(第3学年「店ではたらく人」の実践)

自分の経験を基に考えることができる資料の提示



A、B、Cの3つのなかで、どのスーパーマーケットに行きたいですか。

使用した資料



Bの店に行きたいです。売っている物のコーナーが分かりやすいからです。

提示の仕方

3種類のスーパーマーケットのイラストを並べて提示することで、店内の様子を比較して特徴を見つけやすくした。そして、自分の経験を基にどの店に行きたいか考えさせた。

資料提示後の展開

個人思考



新鮮な食品を売っている店がいいと思うな。

品物の種類が多い店に行きたいな。

話し合い



私は思い付かなかった意見だな。

資料を提示して店の特徴に着目させた後に、付箋紙にどのようなスーパーマーケットに行きたいかを書かせた。グループで、付箋紙を見せ合いながら話し合わせることで、スーパーマーケットの様々な工夫について考えるための視点をもつことができるようにした。



ぼくの行くスーパーマーケットは、こんな工夫をしているのかな。

見学に向けての問い

スーパーマーケットは、どのような工夫をしているのだろう。

考察 本時は、子どもがスーパーマーケットの工夫について考えるための視点をもつことができた。子どもに、問いをもたせるためには、実際に見学するスーパーマーケットの店内の写真を提示したり、話し合いを経て疑問に思ったことやはっきりしないこと等を全体で共有する時間を設定したりする必要があった。

② 自動車開発についての問いをもたせるための手立て

本単元「願いを実現する自動車産業」では、子どもに自動車開発についての問いをもたせ、学習問題を設定することができるように、資料の選定や提示の仕方を工夫した。

(第5学年「願いを実現する自動車産業」の実践)

使用した資料



2枚の写真を比べて、思ったことはありませんか。



左の写真の車から右の写真の車へ進化していると思いました。

子どもに認識のずれを生じさせる資料の提示

実は、この新しい方の車は15代目です。何か疑問に思ったことはありませんか。



15代目!?

どうして、15代目のように、進化させてきているのだろうと思いました。

なぜずっと同じではないのかな。

そんなに何回も変わってきているんだ。

資料の選定と提示の仕方

1種類の自動車に対して開発が何度も行われていると認識している子どもは少ないだろうと想定した。そこで、これまでに複数回開発が行われている自動車の写真を資料として選定した。まず、2枚の写真を提示し、比較させることで、右の自動車は左の自動車が進化したものであることを捉えさせた。その後、新しい方の自動車が15代目であることを伝えた。そうすることで、自動車開発に対して認識のずれを生じさせ、「なぜずっと同じではないのか」や「どうして進化させているのだろう」等の問いをもたせ、そこから本時の学習問題を設定することができるようにした。

本時の学習問題

どうして自動車は新しいものになっていくのだろう。

考察 本時は、提示する資料や提示の仕方を工夫し、子どもに認識のずれを生じさせたことで、問いをもたせることができた。しかし、子どもに解決したいという思いをもたせるためには、それぞれがもった問いについて話し合う時間を確保し、問題意識へと高めて学習問題を設定する必要があった。

(2) 子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方

子どもが自分の学びを自覚するためには、何を学んだか、その結果、考えに深まりや変容があったかなどを視覚的に確認できるようにする必要があると考えた。そこで、単元をととして自分の考えを見つめ直すことができる学習プリントを作成した。

(第3学年「店ではたらく人」の実践)

① ぎもん思ったことを書く。

② 単元の学習問題をつくる。

③ 単元の学習問題にたいするようを書く。

★ ようをふりかえろう。(考えがかわった・はじめの考えにつけくわえたいなど)

④ 単元の学習問題にたいするまとめを書く。

【第3学年で使用した学習プリント】

単元を貫く学習問題「人がたくさん来るスーパーマーケットには、どんな秘密があるのだろう」に対するはじめの考えと比べて、自分の考えが変わったことや、付け加えたいと思ったことはありませんか。



③ 単元の学習問題にたいするようを書く。

おきくさん たくさん来てくれるように、リョウリがおいしくなるように作っている？

★ ようをふりかえろう。(考えがかわった・はじめの考えにつけくわえたいなど)

① 7/15 しょうひんのねだんがやすい。しょうひんをなまごとして分けている。

② 11/4 お店の中がきれい。上にコーフをぬいていて分かりやすくしている。食べ物いかにしょう品もあって、一つのおきだいいしな物を買える。11/22 たくさんののしょう品ももて、おきさんがえらべるようにしている。

① 仲間との話し合いにより、商品だけでなく「店の中の工夫」という視点をもつことができた。

② 食材の産地について考える学習から、食材を選びたいという「消費者の願い」という視点をもつことができた。

(第5学年「願いを実現する自動車産業」の実践)

① 調べたいこと

② 調べ方

③ 調べたこと

④ 調べたこと

⑤ 調べたこと

⑥ 調べたこと

⑦ 調べたこと

⑧ 調べたこと

⑨ 調べたこと

⑩ 調べたこと

⑪ 調べたこと

⑫ 調べたこと

⑬ 調べたこと

⑭ 調べたこと

⑮ 調べたこと

⑯ 調べたこと

⑰ 調べたこと

⑱ 調べたこと

⑲ 調べたこと

⑳ 調べたこと

㉑ 調べたこと

㉒ 調べたこと

㉓ 調べたこと

㉔ 調べたこと

㉕ 調べたこと

㉖ 調べたこと

㉗ 調べたこと

㉘ 調べたこと

㉙ 調べたこと

㉚ 調べたこと

㉛ 調べたこと

㉜ 調べたこと

㉝ 調べたこと

㉞ 調べたこと

㉟ 調べたこと

㊱ 調べたこと

㊲ 調べたこと

㊳ 調べたこと

㊴ 調べたこと

㊵ 調べたこと

㊶ 調べたこと

㊷ 調べたこと

㊸ 調べたこと

㊹ 調べたこと

㊺ 調べたこと

㊻ 調べたこと

㊼ 調べたこと

㊽ 調べたこと

㊾ 調べたこと

㊿ 調べたこと

【第5学年で使用した学習プリント】

単元を貫く学習問題「日本の自動車産業のすごいところって何だろう」に対するはじめの考えと最後の自分のまとめを比べると、どのようなところが変わりましたか。また、その理由は何ですか。



① 調べたいこと

② 調べ方

③ 調べたこと

④ 調べたこと

⑤ 調べたこと

⑥ 調べたこと

⑦ 調べたこと

⑧ 調べたこと

⑨ 調べたこと

⑩ 調べたこと

⑪ 調べたこと

⑫ 調べたこと

⑬ 調べたこと

⑭ 調べたこと

⑮ 調べたこと

⑯ 調べたこと

⑰ 調べたこと

⑱ 調べたこと

⑲ 調べたこと

⑳ 調べたこと

㉑ 調べたこと

㉒ 調べたこと

㉓ 調べたこと

㉔ 調べたこと

㉕ 調べたこと

㉖ 調べたこと

㉗ 調べたこと

㉘ 調べたこと

㉙ 調べたこと

㉚ 調べたこと

㉛ 調べたこと

㉜ 調べたこと

㉝ 調べたこと

㉞ 調べたこと

㉟ 調べたこと

㊱ 調べたこと

㊲ 調べたこと

㊳ 調べたこと

㊴ 調べたこと

㊵ 調べたこと

㊶ 調べたこと

㊷ 調べたこと

㊸ 調べたこと

㊹ 調べたこと

㊺ 調べたこと

㊻ 調べたこと

㊼ 調べたこと

㊽ 調べたこと

㊾ 調べたこと

㊿ 調べたこと

自動車開発の学習や自動車リサイクル工場の見学から、将来にわたって環境に配慮した自動車づくりを行っているという「持続可能性」の視点をもつことができた。

考察 第3学年、第5学年ともに、学習プリントをととして、これまでの学習をつなげて考えたり自分の考えの深まりや変容を自覚したりする子どもの姿が見られた。一方で、1単位時間のなかで分かったことを記述するに留まる子どもも見られた。そのため、発達の段階に応じて学習プリントの形式を変えたり、スモールステップで記述できるように発問したりする必要がある。

今年度の研究のまとめ

(1) 子どもに問いをもたせるための手立て

- 単元や授業の導入で、資料の選定や提示の仕方を工夫することで、子どもが問いをもつ姿が見られた。
- 子どもに問いをもち続けさせたり、学ぶ必然性をもたせたりするための単元構成や発問の在り方について追究する必要がある。

(2) 子どもに自分の学びを自覚させるためのふりかえりの在り方

- 単元をととして同じ学習プリントを使用することで、子どもが前時までの学習と本時の学習をつなげて考えたり、自分の考えの深まりや変容、何を学んだかを自覚したりする姿が見られた。
- ふりかえりにおける学習プリントの形式や、単元のなかでふりかえりを行うタイミングをどこに位置付けるかということについては、検討していく必要がある。